



## 六月の星の空(北天)

### 恒星界

北斗七星は高く位し、天頂には牧夫が來てゐる。北極星を取り圍んで大熊、龍、セフェ、カシオペア、麒麟、駁者などの星座が並び、天の川が東の地平線に僅か見え始めてゐる。南方にはまだ春の星座獅子、乙女、海蛇等が居残つてはゐるが既に蛇遣、蝸、七夕の琴と鷺、白鳥等が現はれて初夏の感を強める。

五月雨に妨げられて、今月は十分星の美を味ふ事の出來ぬのは残念であるが、月始めに宵の西天に水星を見るの事、蛇遣座の土星は見え逃し度くない好位置にある。殊に土星は地球に甚だ接近してゐる事、環の傾が最大となつてゐる事で、小望遠鏡でも十分其の美を味ふ事が出来る。

3日の月蝕は午後7時18分に始まり、皆既蝕午後8時31分より9時48分まで、蝕の終り11時2分である。此の外18日に日蝕あるも日本から見えない。

かつて非常に明るい彗星として興味をひいたスケレラツプ彗星の軌道近くを地球が今月上旬に通過する筈であるから、其の頃流星雨があるかも知れない。輻射點の位置は赤經30度、北緯33度で大體三角座β星の近傍である、従つて早朝でなければ見られないし、且つ月が満月の直ぐ後であるから觀測は困難かも知れぬが、會員諸氏の御注意あらん事を希望する。



Mr. Walter Goodacre

**ワルター・グツドエーカ氏**

昨年、京都大学の山本教授に「18インチ」の大反射鏡をゆづつた人、現に大英天文協會觀測部の「月」の部長である。